「旅への思い　芭蕉と『おくのほそ道』」№２

◎準備するもの　教科書・ノート・辞書・筆記用具

**◎教科書の１０８ページから１１２ページを読み、次の問いに答えましょう。**

**（１）１０８～１０９ページの『旅立ち』を音読しましょう。**

**（２）次は例にならって、一区切りごとに、古文と下段の現代語訳を交互に読み言葉の意味を確認しましょう。**

**（例）月日は百代の過客にして、月日は永遠の旅人であり、**

**行きかふ年もまた旅人なり、行く年来る年もまた旅人である。**

※「おくのほそ道」の冒頭部分『旅立ち』は暗唱することを目指しましょう。毎日、音読を繰り返し、少しずつ区切って覚えるとよいでしょう。

**（３）「日々旅にして旅を栖と」しているのはどんな人達ですか。それぞれ漢字二字で書きなさい。**

**（４）「去年の秋～春立てる霞の空に、白川の関越えむと」とありますが、**

**ここからわかる状態を、次から一つ選びなさい。**

ア　去年の秋に旅立って、今年の春には帰りたいと思っている。

イ 去年の秋に帰ってきたが、またすぐに旅立ちたいと思っている。

ウ 去年の秋に帰ってきて、ゆっくり白川について考えている。

　エ 去年の秋から家におり、春になるのを退屈に思っている。

**（５）「草の戸」と同じ意味合いで使われている言葉を、文中から一語で抜き出しなさい。**

**（６）歴史的仮名遣いに注意しながら、Ｐ１１０～１１２の「平泉」「立石寺」をノートに書き写しましょう。読み仮名も写しますが、青字のカタカナで書かれた現代読みは、写す必要がありません。**

**後に授業で教わったことを書き込めるように、1行空きで写しましょう。**